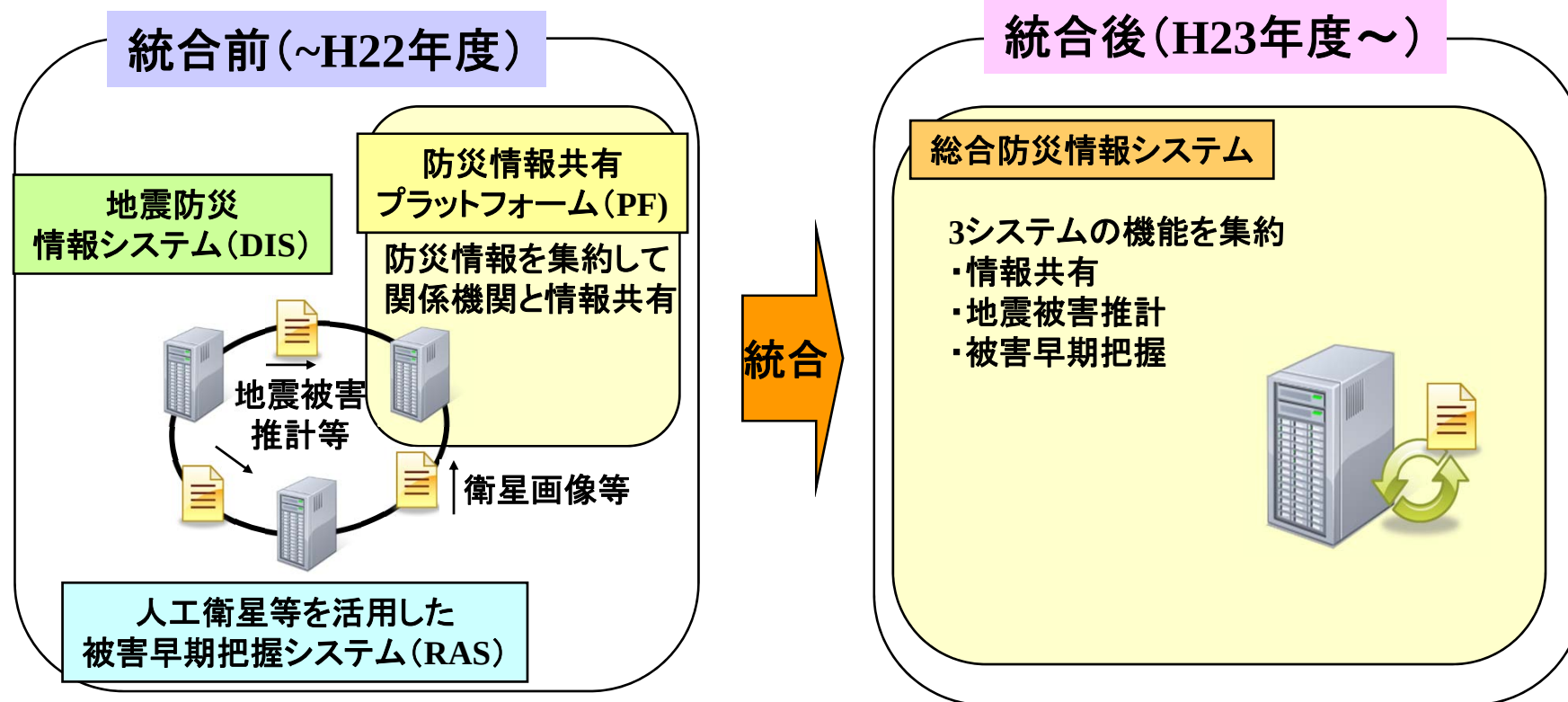


情報の共有化に向けた 総合防災情報システムの運用

平成23年9月29日
内閣府(防災担当)

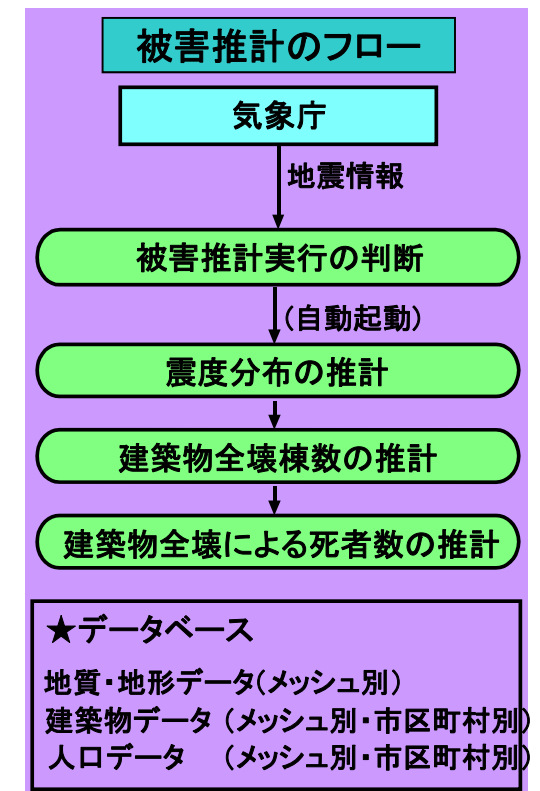
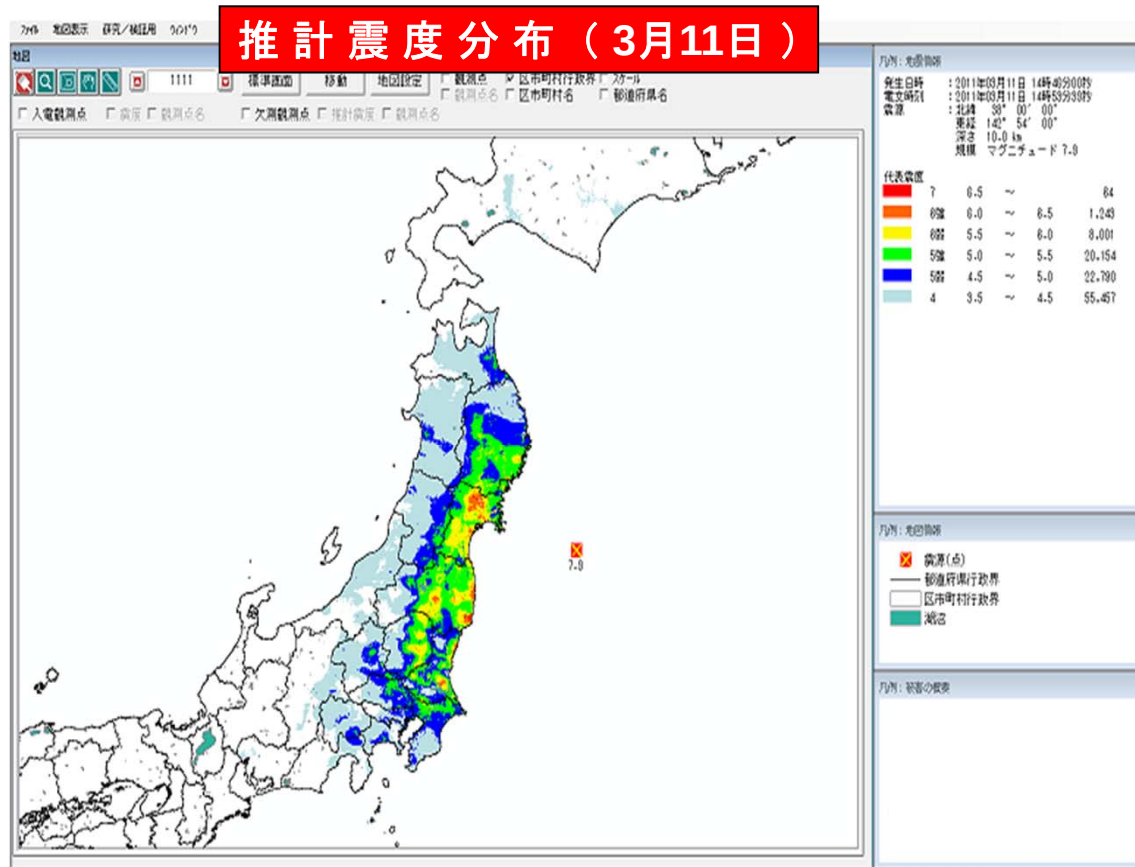
防災情報共有プラットフォームから総合防災情報システムへ

- ・防災情報をGIS(地理情報システム)を活用して共通の地図に集約し、防災関係機関の間で共有するためのシステムとして、平成17年度より防災情報共有プラットフォームを構築。
- ・平成22年度に、「地震防災情報システム」、「人工衛星等を活用した被害早期把握システム」、「防災情報共有プラットフォーム」を統合し、H23年1月より『総合防災情報システム』として試験運用を開始。



総合防災情報システムの地震被害推計機能

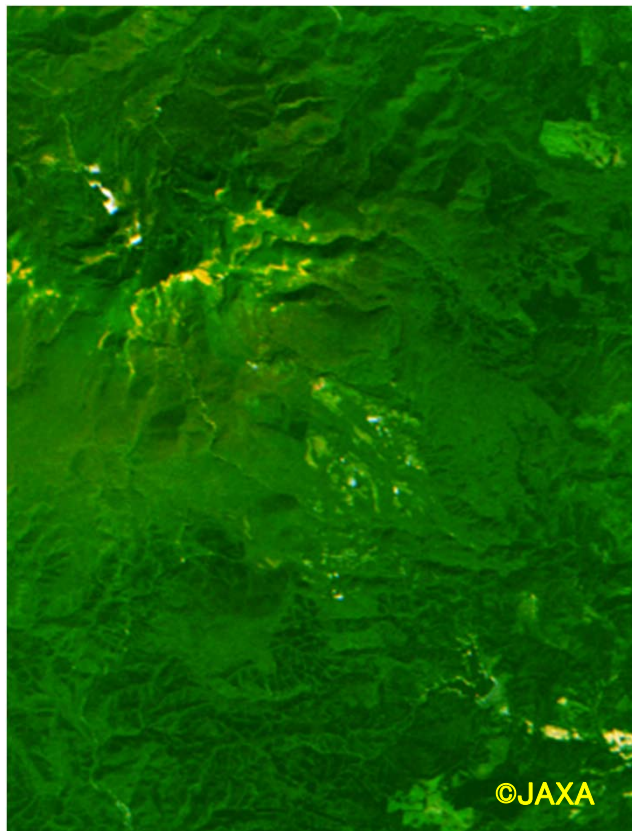
- ・気象庁等の観測点(約4200点)における震度情報をもとに、震度4以上が観測された場合に自動的に起動し、発生から概ね10分で震度分布、建築物の全壊棟数及び建築物の全壊に伴う死傷者数を推計する。



人工衛星等を活用した被害早期把握システム(RAS)

- 人工衛星等を活用した被害早期把握システムは、大規模災害発生時に広範囲の撮影が可能な人工衛星等の画像を活用することにより、実被害情報を早期に把握し、迅速かつ的確な初動体制の確立を図ることを目的としている。

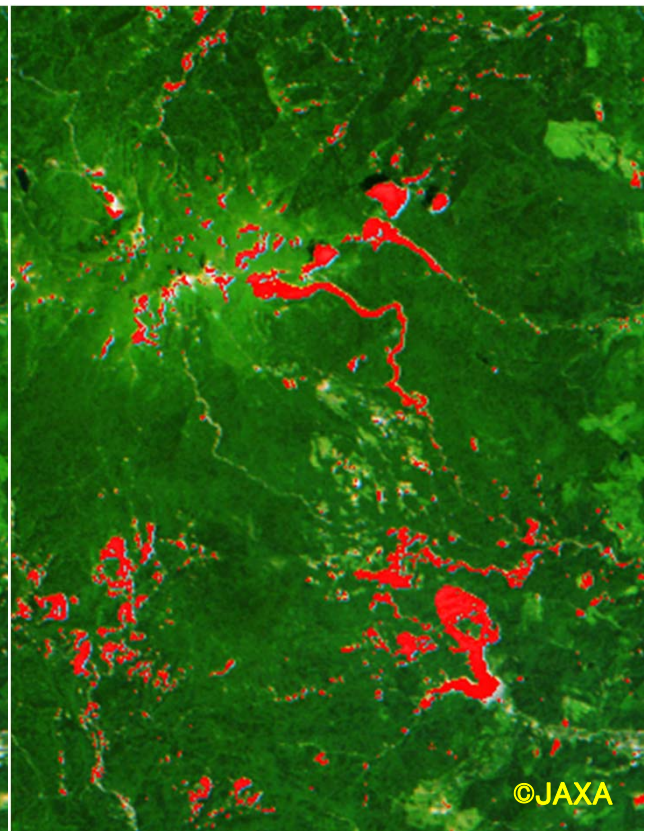
○平成20年6月14日 岩手・宮城内陸地震 被災箇所抽出例



被災前(H18/10/17観測)



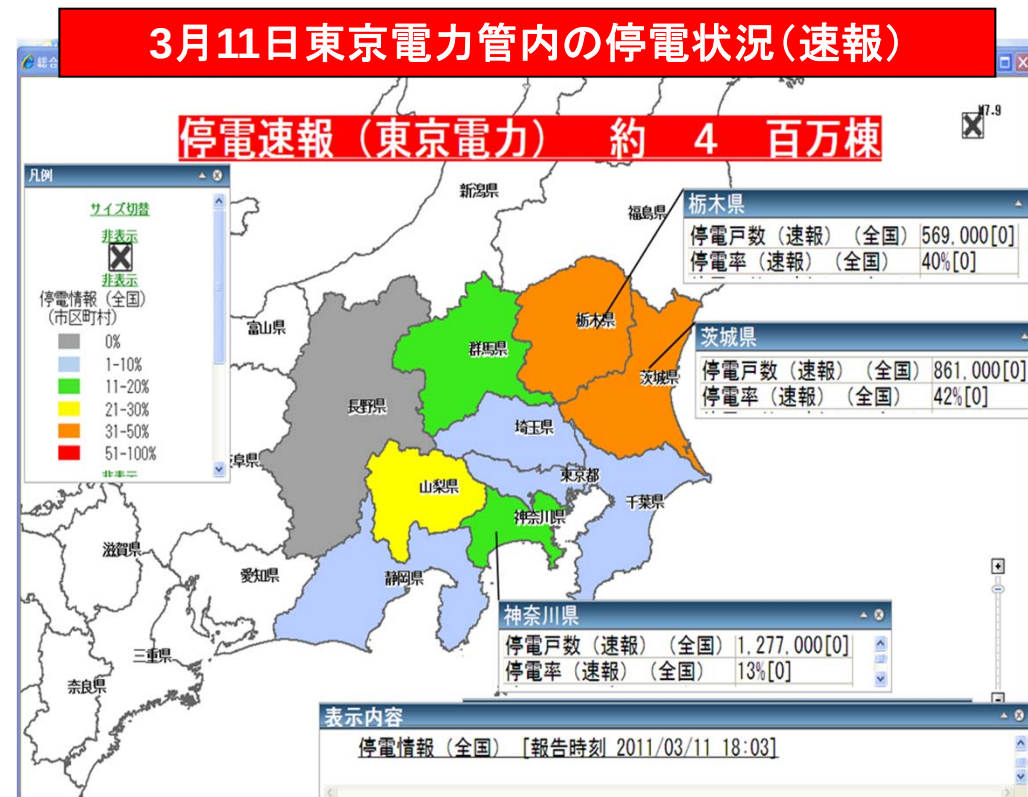
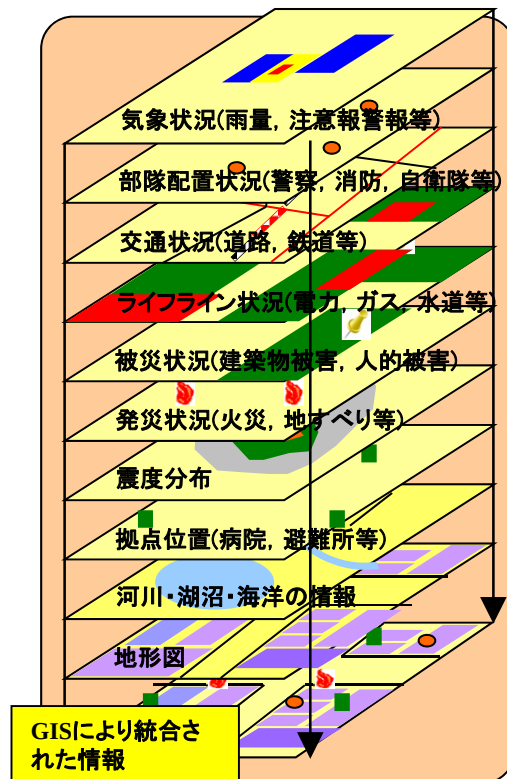
被災後(H20/7/2観測)



総合防災情報システムの情報共有機能

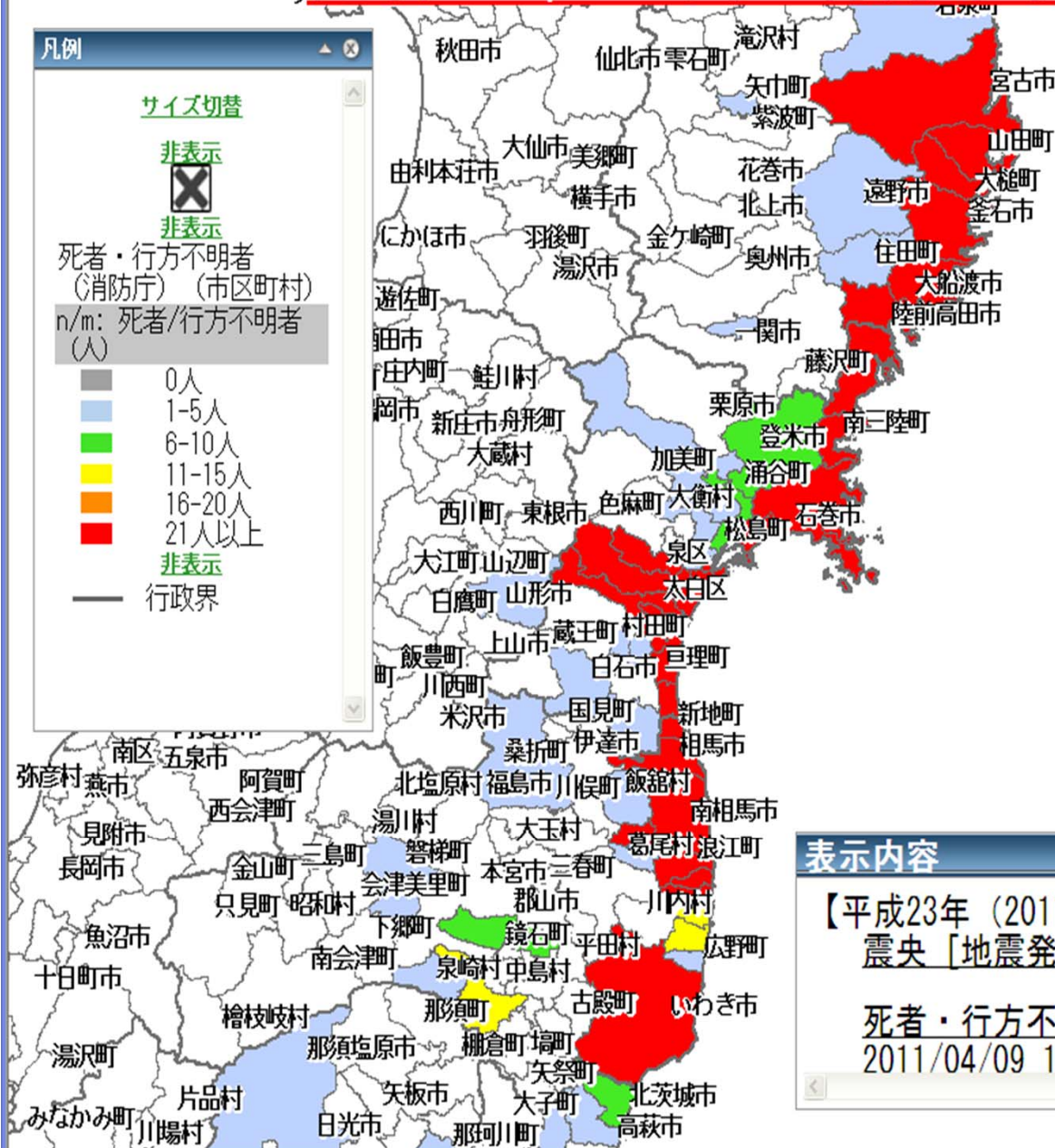
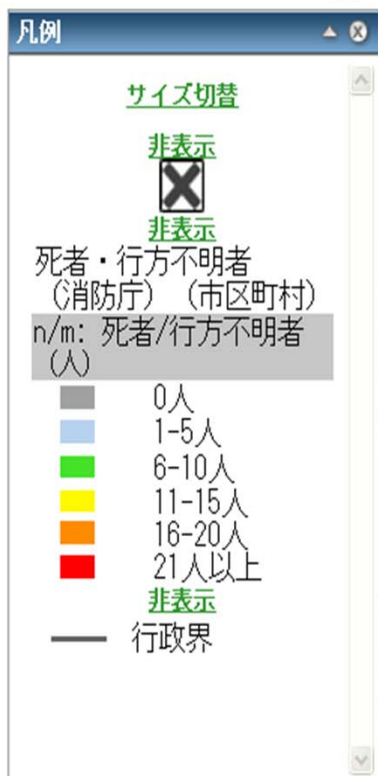
- ・平成15年7月防災情報の共有化に関する専門調査会報告でPFの構築が謳われ、平成17年度から構築。
- ・防災関係機関の防災情報を、GIS(地理情報システム)を活用して共通の地図に集約して情報を共有するためのシステム。
- ・現在、震度分布・被害推計、気象状況、ライフライン状況(一部電力・ガス)、被災状況、河川情報等を地図上に表示可能。

【防災情報共有プラットフォーム】



死者 12,453人 行方不明者 12,811人

内閣府



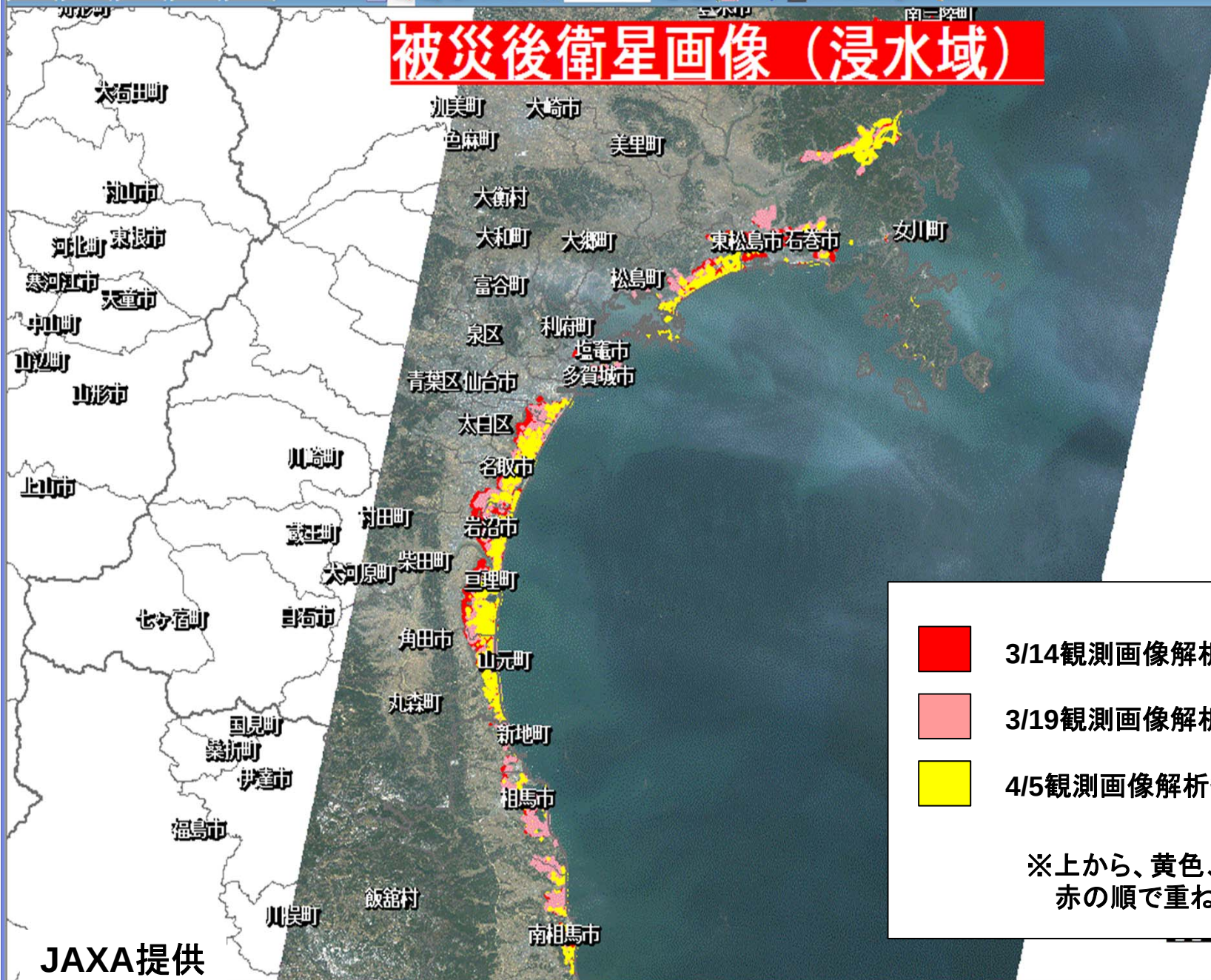
表示内容

【平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震】

震央 [地震発生 2011/03/11 14:46]

死者・行方不明者(消防庁) [第98報] [報告時刻
2011/04/09 12:00]

被災後衛星画像（浸水域）

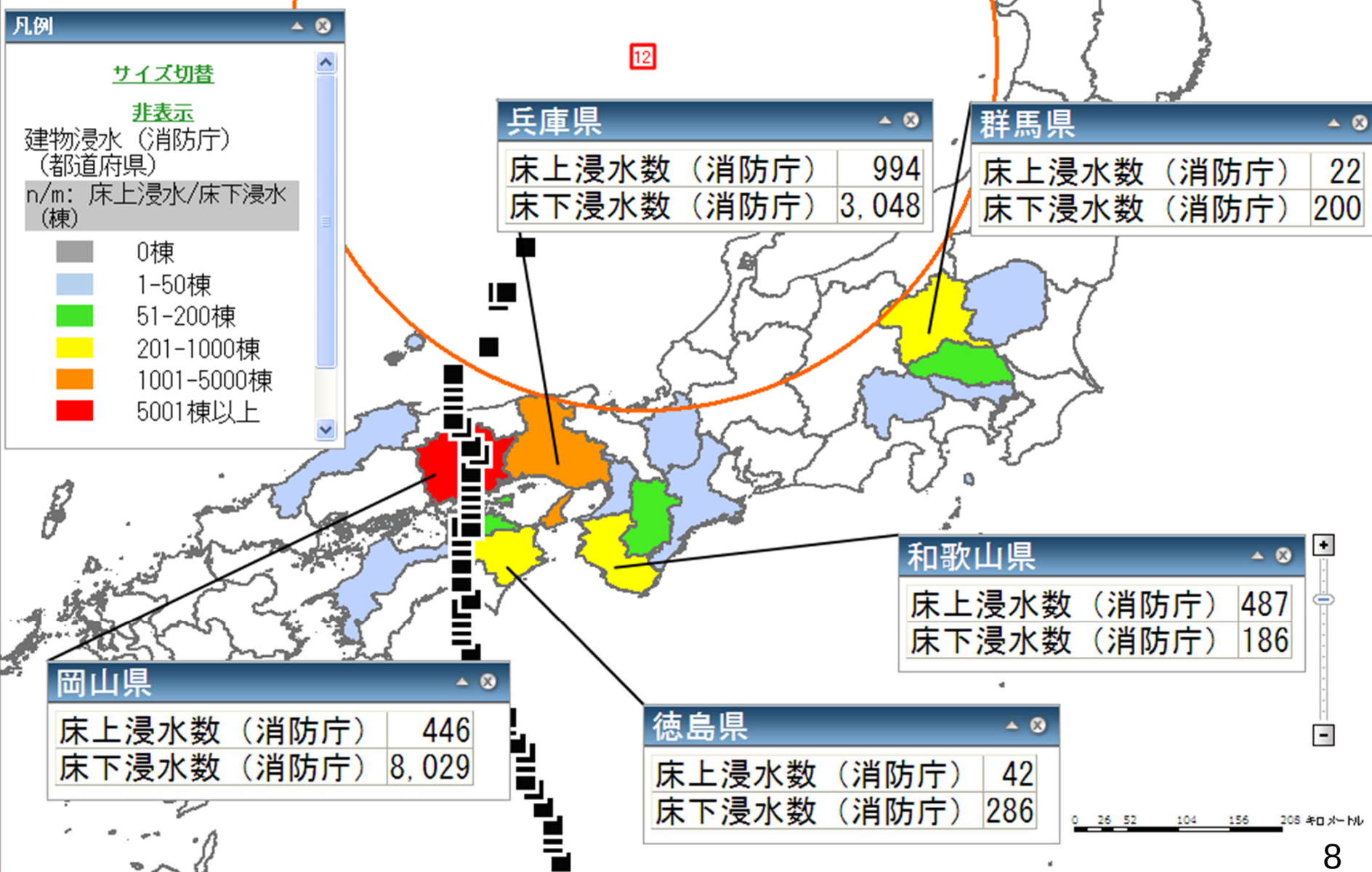


- 3/14観測画像解析結果
- 3/19観測画像解析結果
- 4/5観測画像解析結果

※上から、黄色、ピンク、赤の順で重ね合わせ

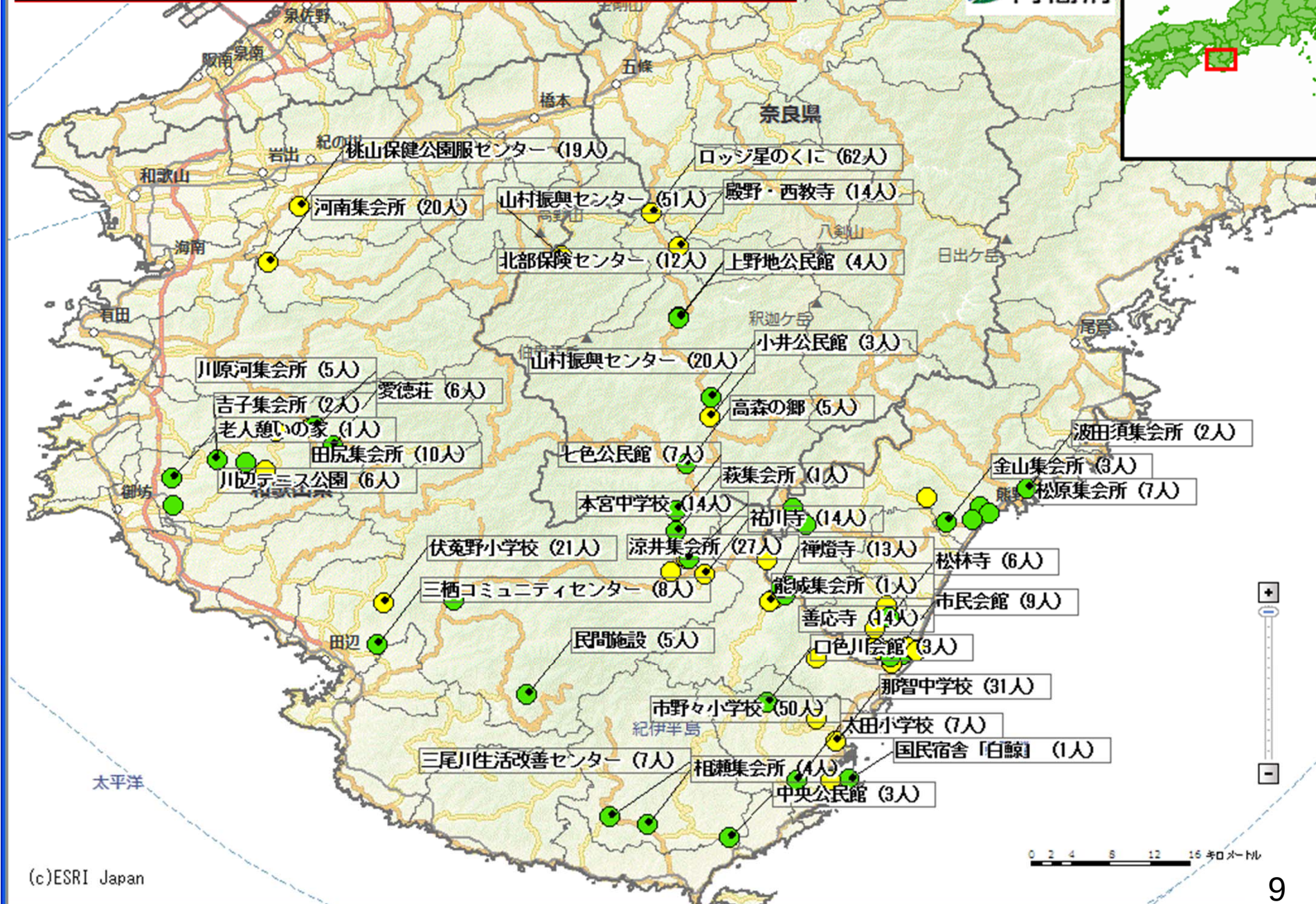
床上浸水2,126棟・床下浸水12,343棟

内閣府



被災3県 避難所マップ (9月14日現在 内閣府調べ)

内閣府



五條市大塔町赤谷河道閉塞画像 (©DigitalGlobe/日立ソリューションズ提供)



